

# 全農式点滴灌水キットによる収量・所得の向上

○効率的な灌水により作物の生育が促進され、早期出荷や増収により所得が向上します。

## 【全農式点滴灌水キットの特徴】

1. タイマー制御による地中点滴灌水により、省力的かつ効率的に少量・多頻度灌水ができる。
2. スプリンクラーなどの散水灌水に比べて、「均一に灌水できる」、「葉が濡れないので病害の発生が少ない」、「畝間の雑草発生が少ない」、などのメリットもある。
3. オプションで液肥の施用も可能。

\* 利用に当たっては、一定の水圧・水量が確保できる水源が必要



全農式点滴灌水キット(標準型)



収穫物の比較(千葉県山武市)  
下段が地中点滴灌水、上段がスプリンクラー灌水

## 【収量の向上】

全農営農・技術センターでの試験では、1日10L/m<sup>2</sup>灌水で収量が42%増加。  
全国23の実証試験(H28～H29)でも、最大72%(平均15%)の増収。

表1 1日灌水量と収量の関係(全農 営農・技術センター)

灌水量 (L/m <sup>2</sup> )	上物収量 (kg/10a)	比 (%)	規格別重量割合 (%)		
			L	M	S
灌水なし	4,870	100	32	50	18
2.5L/m <sup>2</sup>	5,620	115	46	47	7
5.0L/m <sup>2</sup>	6,270	129	53	41	6
10.0L/m <sup>2</sup>	6,910	142	73	25	2

## ＜収量確保に向けた栽培ポイント＞

1. ネギの定植直後に株元にチューブを設置し、日蒸発散量が2mmを超える3～11月(関東の場合)は、生育期間を通じて毎日灌水する。
2. 1日灌水量は2～6mm(1～3時間)を目安とする。ただし、極端に土壤水分が多い時は灌水を一時中断する。

## 【経済性】

灌水装置費と、増収に伴う出荷経費が増加するが農業所得は10a当たり約38万円多くなる。

表2 経済性の試算(全農 営農・技術センター)

項目	点滴灌水区	無灌水区
粗収益(円)	1,865,700	1,314,900
販売量(kg)	6,910	4,870
平均単価(円/kg)	270	270
経営費合計(円)	676,494	505,771
物財費合計(円)	304,932	243,903
点滴灌水資材費	51,029	0
その他	253,903	243,903
出荷経費合計(円)	371,562	261,868
出荷運賃	62,190	43,830
出荷手数料	206,609	145,613
その他経費	102,763	72,425
農業所得(円)	1,189,206	809,129